

## 新技術紹介【エンジニアリング】

### 河川表流取水工法

環境にやさしい河川工事のために  
独自に開発された利水技術。



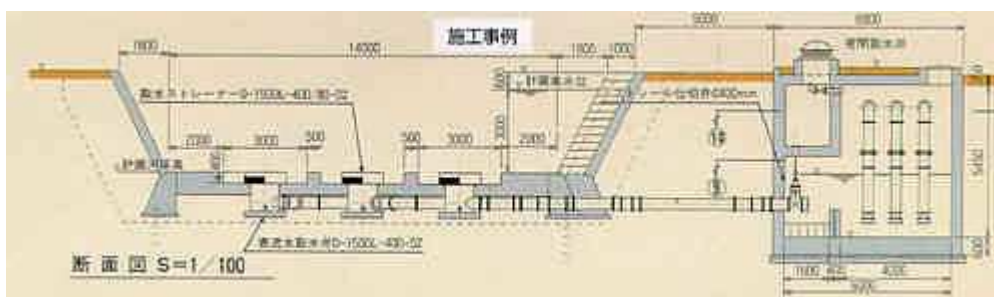
#### 特徴

- ・河川の流心に表流水取水弁を設置する独自工法。
- ・取水量の変化がなく、多量の取水が可能。
- ・自然流水によるフラッシュで洪水時でも維持操作の手間が不要です。

河川改修や流水を利用する際にも、治水・利水の目的を達成するだけでなく、地域の自然環境を保ちながら、自然と調和した施設を創出することが求められています。

当社では、環境に優しい先進の技術を導入し、農業用水や消雪・流雪用などの取水に大きな威力を発揮する『取水・揚水新技術』の工法として「河川表流水取水工法」を提案しています。河川の取水地点の河況に適する、最善・最良の取水工法を採用することで、維持管理を容易にし、メンテナンスの不要なシステムとすることも可能です。

既に全国各地に数多くの施工例があり、新潟県内においては新井市内及び、小千谷市片貝地区内で流雪溝の取水施設工事が完成しました。実施例により今後、県内の河川や用水路でも多大な効果を発揮することは間違いなく、21世紀にふさわしい環境対応型の技術として大きな期待が寄せられています。



施工事例断面図



渋江川流雪溝取水施設工事  
(新潟県新井市)



水中曝気／流芥による閉塞を検知したら、圧搾空気を自動的にストレーナーの内部から一気に水中曝気し流芥を除去。



片貝町新屋敷取水施設工事  
(新潟県小千谷市)／  
河川改修計画が盛り込まれ取水ストレーナーその他配管類を計画河床高に合わせられる様に工夫した一例。



片貝町新屋敷取水施設工事  
(新潟県小千谷市)／  
揚水ポンプを用い導水路に堆積した土砂等を下流方向へ掃流させる施設を用いた一例。